



**SORAK Development Agency**  
`SDA **Registered NGO: No: 8726**



UEB Zone, Church Road –Mulago; P.O Box, 71883 Clock Tower –Kampala; Tel:+256 703515225 Mubende  
Office: Lusalira T/C, 16km from Mubende Town along Mubende –Fort portal Road

## インパクトアセスメント報告書

# 生理で学校に行けなくなる女子学生の 教育環境改善事業 (ウガンダ共和国)

2018 年 12 月

**By: Irene Murungi**

**Adolescent and Gender Consultant**

**Tel: 0772638363/0704636795**

**Email: [murungii@tasouganda.org](mailto:murungii@tasouganda.org) / [murungiiirene@gmail.com](mailto:murungiiirene@gmail.com)**

## はじめに：

SORAK は、聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校、ルワウナ初等学校、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの 3 校における、女子学生の月経時の衛生管理の改善プロジェクトに対する Global Bridge Network (GBN)、並びに LUSH Japan からの支援に心から感謝する。

## 1.0 プロジェクトの背景

SORAK は Global Bridge Network (GBN)、並びに LUSH Japan の支援のもと、ムベンデ県チバリンガ郡と、ナビンゴラ郡にある聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校、ルワウナ初等学校、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの 3 校において、「ウガンダにおける生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を 2017 年に開始した。上記のプロジェクト実施により、対象校と生徒への効果を生みだし、その成功により、2018 年には女子学生の月経時の衛生管理の改善プロジェクトを継続して進めることができた。新たなプロジェクトでは、以前のプロジェクトに参加した生徒が、更なるスキルを獲得し、また他の生徒を指導して対象校における女子学生の月経時の衛生管理の改善を実施した。保護者、教員、SORAK の協力を得て、生徒たちは自ら他の生徒を指導する手法で活動した。

### 1.1 データ収集の期間と対象地域

データ収集は、ナビンゴラ郡のルワウナ初等学校、チバリンガ郡の聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの 3 校において 2018 年 11 月 20 日～11 月 27 日に実施した。

### 1.2 アセスメントの対象

本データ収集は、SORAK のプログラムスタッフを含む 3 名のアシスタントによって実施した。インパクトアセスメント調査は、ルワウナ初等学校の 21 名、チバリンガ郡の聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校 15 名、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター 12 名と、対象校より計 48 名の生徒（男子生徒 12 名、女子生徒 36 名）を選出した。

なお、SORAK 作成の「布ナプキン啓発と普及」に向けた地域での会合の参加者 8 名（女性 6 名、男性 2 名）、学校の責任者 2 名（ルワウナ初等学校、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター）、女性教員 3 名、男性教員 3 名も調査の対象となった。

## 2.0 アセスメントの主なプロジェクト分野

### 2.1 生徒から生徒へ行う月経時の衛生管理とクラブの組織

#### 2.1.0 概要

2017 年のプロジェクト実施の際に生徒や教員からの強い要望もあり、プロジェクトの対象者（学校、コミュニティ、保護者）が自ら主体性を持つことで今後も事業が継続するように「月経衛生クラブ」を設立した。各対象校の「月経衛生クラブ」は女子生徒 8 名、男子

生徒 4 名からなり、子どもから子どもへ知識や技術を伝える手法を用い、月経時の衛生管理教育、ジェンダー啓発の普及、性教育（全ての個人が性と生殖に関する健康を求め、享受する権利を含む）を SORAK や教員などの指導の下に実施した。「月経衛生クラブ」は、布ナプキンの製作を含む月経時の衛生管理トレーニングを継続して実施する。

### 2.1.1 「月経衛生クラブ」のメンバー

インタビューを受けた生徒のうち、対象校 3 校の 31 名（全体の 79%に相当する）が「月経衛生クラブ」のメンバーで、残りの 17 名（21%に相当する）はメンバーではないが、早い段階からプロジェクトに関与してきた生徒であった。

「月経衛生クラブ」のメンバーの選定は、SORAK のプログラムスタッフと教員によって行い、生徒の参加意欲、積極性、コミュニケーション能力、授業への出席率から総合的に判断した。

### 2.1.2 「月経衛生クラブ」のメンバーとなることの利点

「月経衛生クラブ」のメンバーとなることの利点	人数	%
月経時の衛生管理（個人の衛生管理、ナプキンの衛生・安全性の確保や、ナプキン共有に伴う問題等を含む）について学び、他の生徒に、適切な月経時の衛生管理を指導できる。	30	63%
布ナプキンの製作と正しい使用方法に関する技能を得る。	18	37%
女生徒が月経で洋服を汚してしまってもからかわない	8	16%
月経と月経の遅れに関する問題について、他の生徒の相談に乗ったり、指導をしたりすることが出来る。	8	16%
地域で手に入る材料を用いた布ナプキンの作成方法を習得し、それを他の生徒に指導出来る。	5	11%
生徒たちに月経について説明できる	3	5%

出典：現地調査データ

ある男子生徒は、「月経の周期が 28 日毎に来ることを学んだ」

ある女子生徒は「私が使用する布ナプキンは、私自身で作成した」

保護者のプロジェクトに対する態度が変化し、今ではとても協力的であるとある男子生徒は証言した。「以前は、生理用品を購入するという親の責任を無視していたが、この取り組みにより責任を持つようになった。」

上記の調査結果に基づくと、「月経衛生クラブ」のメンバーのうち 30 名（聖ジョセフ・チバリング 初等学校の 10 名、ルワウナ初等学校の 12 名、プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの 8 名で 63%に相当する）が、月経時の衛生管理の知識（月経時の個人の衛生管理—ナプキンを他人と共有してはいけないこと、毎日 2 度水浴びする必要があること等）を得た。クラブメンバーは、これらの重要な月経時の衛生管理の知識を他の生徒と共有した。

## 2.2 「月経衛生クラブ」のメンバーによる子ども同士で教え合う手法（Child-to-Childアプローチ）を用いた月経時の衛生管理教育、ジェンダー啓発の普及、性教育

### 2.2.1 トレーニングの参加率

調査対象の「月経衛生クラブ」のメンバーでない17名のうち、10名はクラブが実施したジェンダー啓発のセッションに参加した。残りの7名はクラブが実施したトレーニングや情報共有のセッションに参加しなかった。セッションに参加しなかった7名は、有益な情報が得られず残念がり、友人からその情報を得るつもりであると答えた。

### 2.2.2 「月経衛生クラブ」の全てのセッションに参加する利点

「月経衛生クラブ」に参加する利点	人数	%
ジェンダーの役割、責任に関する知識が身につく	33	68%
見知らぬ人からの性交渉と引き換えの贈り物や無料の送迎、その他の利益を受けることを回避できる。	15	32%
素行の悪い生徒のグループを避けることが出来る	8	16%
月経時の衛生管理と個人の衛生管理の適切な知識を得ることが出来る	8	16%
男女平等の扱いを理解できる。	3	5%

出典：現地調査データ

調査対象の生徒によると、「月経衛生クラブ」は参加型であり、お互いに学び合う方法を用いたため「月経衛生クラブ」の活動に参加することで大きな利益が得られたと述べた。今回のインタビューを受けた生徒（クラブメンバーとメンバー以外を含む）全員が、クラブ活動から得た情報は有益だったと述べた。33名の生徒（68%に相当）は、ジェンダーの役割と責任についての理解を深めることが出来た。15名（32%）は、性交渉と引き換えに贈り物を受け取ることの危険性について学んだ。8名（16%）は、月経時の衛生管理や個人の衛生管理について大いに学んだと述べた。その他の利点として、素行の悪い生徒のグループに関わることの危険性や、男女の平等などについて挙げた。

### 2.2.3 「性教育」と「月経時の衛生管理」セッションで最も良かった点

調査結果によると、調査対象の生徒48名のうち、46名（95%）が性教育、月経時の衛生管理のトレーニングが非常に重要で適切な内容であったと述べ、下記に最も良かった点を挙げた。

- 若年の性交渉、妊娠、結婚に伴う危険・問題とHIV/AIDSについて
- 性交渉と引き換えに見知らぬ人から贈り物や金銭を受領することの危険について
- 若年の性交渉に伴う危険・問題の知識を得たのち、女子生徒の性交渉に対する考え方が変化したこと。（以前は、自分の性交渉の体験を友人に話していたが、性教育のセッションが行われてからはそのような会話がなくなった。）
- 盗難、売春、退学という危険を引き寄せる素行の悪い生徒たちとの関連を絶つこと
- 教育を受け続けることの重要性を理解した。
- 月経は女性に必ず起きる自然の現象であることを理解した
- 再利用可能な布ナプキンの作成について

- 月経時の衛生管理と個人の衛生管理（病気や感染症を防ぐために他人とナプキンを共有しないこと）について

ある生徒は、「月経は少女が大人の女性に成長するための重要な過程である。私たちは、月経に対する女子生徒の振る舞いについてもっと知りたい」

#### 2.2.4 「ジェンダー啓発」セッションで最も良かった点

「月経衛生クラブ」によるジェンダー啓発セッションで最も良かった点として下記が挙げられた。

- 学校、家庭で担う女子と男子のジェンダーの役割と責任の相違について。学校における役割については、男子は力仕事や水汲み、女子は掃き掃除、教室のモップ掛け等である。
- 親、保護者、一般のコミュニティにおける男女のジェンダーの不平等、格差といった文化的な信念が根強く存在している。女子への教育は時間の無駄であり、女子は結婚をするべきなどである。

生徒へのインタビュー結果によると、男女のジェンダーの不平等は強く存在している。何名かの女子生徒は、保護者が、女子への教育を無駄だと思っており、教育を受ける権利は性別を理由に否定されていると告白した。初等教育を与えることが義務化されても、男子生徒への教育が最優先とされている。

### 2.3 生理用布ナプキン作成の確立

#### 2.3.0 概要

対象校 3 校にて、生徒、並びに教員自らが布ナプキンの作成のトレーニングに参加し、地元で入手可能な材料を用いた布ナプキンの作成方法を学んだ。対象校にミシンと材料（柔らかい布、伸縮性のある布、綿、針、糸、物差し、はさみ等）を支給したので、彼らは布ナプキンを継続的に作成し、女子生徒がそれらを使用することができた。ルワウナ初等学校では、布ナプキンを製作・販売し、継続して材料費を捻出することで、布ナプキンを作成するという計画がある。

#### 2.3.1 布ナプキン作成への参加

調査によると、対象校の大方の生徒は布ナプキンを製作する技術を身に付けた。この調査対象の生徒 100%が、子ども同士で教え合う手法を用いた月経時の衛生管理教育と布ナプキンの生産へトレーニングに参加していた。また、新しく身に付けた布ナプキン作成の技術を活用するかとの質問に、30 名（63%）の生徒が、自身が使用し、経費を節約するため、並びに販売して収入を得るために活用すると回答した。しかし、18 名（37%）の生徒は、材料がないために作成できないと答えた。

### 2.3.2 月経時の衛生管理に関する総合的な知識

インパクト調査チームは生徒たちに月経時の衛生管理の知識レベルについて質問し、33名(68.7%)の生徒は、月経時の衛生管理の知識は十分・適切と回答した。10名(20.8%)の生徒は、知識は十分でないため、更なるトレーニングが必要であると述べた。他方、5名の生徒(10.4%)も、月経時の衛生管理の知識は十分得たので、他の生徒に知識を共有し、共有すればするほど多くの知識が習得できるとした。

### 2.3.3 布ナプキン製作に関する総合的な技術

インタビューを受けた生徒に、新しく習得した布ナプキン製作の技術のレベルを評価させたところ、2名(5%)の生徒は十分な技術が習得できておらず、「月経衛生クラブ」や教員の支援を得て、技術を向上したいと述べた。また、38名(79%)の生徒は、中程度の技術があり、SORAKスタッフや女性教員の最低限の指導があれば布ナプキンを製作できると回答した。8名(16%)の生徒は、高い技術を要しているために、指導なしでも布ナプキンを製作できると回答した。

### 2.3.4 布ナプキン製作の成果

大多数の生徒は「月経衛生クラブ」の実施するトレーニングで1名につき1~3個の布ナプキンを作成した。数名の生徒は、3個以上の布ナプキンを生産しており、そのうち1名は30個もの布ナプキンを製作した。

「私は、30個の布ナプキンを生産し、それを女性教員に渡しました。布ナプキンは月経になった女子生徒が使用するために保管されています。」とルワウナ初等学校の女子生徒は述べた。

布ナプキンを作成した女子生徒たちの多くは、個人の利用、姉妹や他の女子生徒のため(保管されるため)だが、販売のために作成した者もいた。

生徒のうちの1名は「布ナプキン生産は、将来、私のビジネスになる可能性がある」と述べた。

インタビューを受けた48名の生徒のうち、45名(89%)が手作りの布ナプキンの質は良いと回答し、ある女子生徒は「私の先生が手作りの布ナプキンを使用して、それはとても良かったと言っていた」と述べた。5名(11%)の生徒は、例えば大人が助けてくれたら、布ナプキンの質が更に良くなると答えた。

また、後続のトレーニング後、36名の女子生徒全員が、布ナプキンの共有は良くないことだと理解し、共有によって生じる病気や感染症等の健康への影響の知識を得、そのような場面に遭遇したら、保健施設における治療を受けるべきだとアドバイスされた。

## 2.4 月経における女子の状況

### 2.4.1 女子生徒の欠席

月経を理由とした授業の欠席について、インタビューを受けた女子生徒のうち、8名(22%)は過去30日以内に授業を欠席したことがあり、大半の28名(78%)は欠席したことはないと答えた。しかし、上述の生徒のうち6名の女子生徒は過去30日以内に3日間、あるいは

は 3 日間以上欠席したが、この欠席は月経が原因ではなく、病気や学費未払いによる欠席であった。インタビューに回答した生徒のうち、28 名（78%）は初潮が来ており、残りの 8 名（22%）の生徒は初潮を迎えていなかった。

#### 2.4.2 月経時に女子学生はどのような生理用品を使用していたか

36 名の女子生徒のうち、月経を迎えた 28 名の生徒に「直近の月経期間中にどのような生理用品を使用したか」と尋ね、18 名（63%）は「SORAK の指導で生産した布ナプキン」と回答した。10 名（37%）は「使い捨ての生理用品」と回答した生徒に「なぜ使い捨て生理用品を使用したのか」という更なる質問をしたところ、ある女子生徒は「布ナプキンはボタンがなくて完成していない」と答えた。使い捨てを使用した多くの生徒は初潮を迎えたばかりで、自分が作成した布ナプキンを友人、親戚や姉妹に提供してしまったと回答した。使い捨ての生理用品（例：Always）を先月に使用した生徒 10 名のうち 6 名は SORAK の指導で生産された布ナプキンを使用してみたいと回答し、残りの 4 名は、布ナプキンは適切とは思えないと答えた。

### 2.5 地域に根差した会合

#### 2.5.0 概要

SORAK は、地域の人々を対象に意識や関心を高めるための会合を、チバリングとナビンゴラの 2 準郡の 13 の地域で開催した。会合は SORAK が生産した布ナプキン「Happy Pad」の使用を促し、また、女子学生の月経を理由とする欠席・退学を減らすために保護者・保護者が月経時の衛生管理に対する役割、責任についての意識を高めることも目的とした。そして、この地域会合から 8 名の母親が本アセスメントに参加した。

#### 2.5.1. 地域を基盤とした意識や関心を高めるための会合

調査対象となった母親は、SORAK が生産した布ナプキン“Happy Pad”は低所得者や、女子生徒の月経時の衛生管理に効果的であり、汚い布よりも“Happy Pad”を使用することで月経時の衛生管理を改善すると述べた。調査に参加した母親は「SORAK の布ナプキンは安価で、農村部の貧しい女性、少女でも購入できる」とコメントした。また、「布ナプキンは洗濯、保管を繰り返して 12 か月使用できるため利用しやすい」と答えた。

布ナプキン作成における SORAK のボランティアは、地域住民を対象とした会合にて布ナプキンを紹介した。布ナプキンの材料とそれぞれの目的について説明した。材料は伸縮性のある布、柔らかい布、ポリエチレン、ボタン、脱脂綿等であり、伸縮性のある布とポリエチレンは、血液が下着に染み込むのを防ぎ、ボタンは下着への固定のため、脱脂綿は血液の吸収のため、柔らかい布は上層をカバーし、女性の生殖システムに脱脂綿が入るのを防ぐと説明した。住民は SORAK の布ナプキンが継続的にいつでも手に入るように確約してほしいと要望した。

## 2.6 布ナプキン生産拠点の構築

### 2.6.0.概要

月経時の衛生管理プロジェクトの実施と利益を継続するため、ムベンデ県のSORAK事務所において布ナプキン生産の作業所を建設した。SORAKは、布ナプキン生産ボランティアを確保し、資機材を調達し、供給網を構築した。コミュニティや対象校以外の学校に販売することで、プロジェクトの継続を保証することを目指している。



SORAKの布ナプキン

### 2.6.1. 布ナプキン生産の作業所の活用

アセスメントチームは、SORAKの布ナプキン生産ボランティアから生産の進捗について下記の回答を得た。

- 布ナプキン生産拠点が確保され、2018年3月から生産は始まっている。
- SORAKは‘Happy Pad’と名付けた布ナプキンを生産し、市場で販売している。200セット以上の在庫があり、販売、配布に備えている。

## 2.7 月経時の衛生管理プロジェクトでの生徒や教員の反応

### 2.7.1 月経時の衛生管理プロジェクトから参加者は何を学んだか

SORAKが対象校3校で実施している月経時の衛生管理プロジェクト（布ナプキン生産の材料の提供、布ナプキン生産技術の教授、若年の性交渉に伴う危険性の啓蒙等）から参加者（学生、学校の責任者、教員）は何を学んだかについての回答は下記の通り。インタビューされた48名の生徒、3名の女性教員、3名の男性教員、2名の学校の責任者、合計56名はプロジェクトの成果を述べた。

回答	人数	%
参加者に布ナプキンの材料の提供と手作業での生産方法を教えた	32	58%
布ナプキン生産のための材料を地元で調達、対象校に提供し、女子生徒の月経に対応した	30	53%
適切な月経時の衛生管理と、個人の衛生管理の改善	23	42%
参加者に布ナプキン生産の技術を教授した	12	21%
女子学生に教育の価値・自制を理解させ、女子生徒の行動を変化させた	12	21%
生徒が性教育の知識を身に付けた	6	11%
不良グループに関わることのリスクを理解した	6	11%
「月経衛生クラブ」の組織	3	11%
男女の平等と若年の結婚の危険性について生徒へ啓蒙した	1	5%

出典：現地調査データ

生徒たちは、学んだ布ナプキン生産の技術を頻繁に活用することが出来れば、その技術を定着させることが出来、技術を用いてビジネスを行うことが出来、布ナプキンの活用が月経時の衛生管理を改善すると答えた。

注：回答者の数名は、複数の回答を行った。

### 2.7.2 参加者が本プロジェクトから何を学んだか

2018年の月経時の衛生管理プロジェクトで参加者がSORAKから学んだことは以下の通り。

1. 布ナプキン生産のための材料の名称を知り、手作業で生産できるようになった
2. 布ナプキンの正しい使用方法を身に付けた
3. 月経時の個人の衛生管理を学んだ（布ナプキンの洗濯等）
4. 他の女子生徒をサポートする方法
5. ビジネスとしての布ナプキン作成
6. 布ナプキン使用の利点

## 2.8 関係者の態度

各関係者は下記の通り、月経時の衛生管理に対する態度を変化させた。

### 2.8.1 男子生徒の月経時の衛生管理に対する態度の変化

- プロジェクト後に男子生徒の態度に変化が見られた。生理中の女子生徒が洋服を汚してもからかわなくなり、月経になった女子生徒を女性教員のところに連れて行くなどサポートするようになった。「以前は、女子生徒をからかったり、笑ったりしていたけれど、もう笑わないし、彼女たちを助けている」とSORAKのプロジェクトに参加した複数の男子生徒は述べている。
- 男子生徒は協力的になり、その結果、生理に対する偏見が減り、男子生徒はクラブの活動に加わるまでになった。

### 2.8.2 教員の月経時の衛生管理に対する態度の変化

- 教員は生徒が適切な月経時の衛生管理を実施するようにサポートするようになった。具体的には、布ナプキン作成トレーニングに参加し、月経に関して生徒への指導や相談にのり、「月経衛生クラブ」の生徒たちが自ら他の生徒を指導する活動を支援した。
- 教員は、女子生徒の月経に対する対処の改善を促すようになった。以前は月経に関する情報を生徒に教えることはなかったが、SORAKのプロジェクト実施後には、月経に関する問題を公然と教えるようになった。
- 教員は、今では学校の衛生管理の実践に感謝するようになった。

### 2.8.3 保護者の月経時の衛生管理に対する態度の変化

- 保護者との会合を通して、継続的に保護者が本問題に関心を持つように促すことで保護者の態度は変化してきた。例えば、思春期（5-7年生）の娘のいる保護者は、資機材を購入し、プロジェクトを継続するために1,000ウガンダシリングを寄附することに同意した。

- 保護者は、SORAK から月経についての知識を SORAK から得たことで、娘に説明することをためらわなくなった。何名かの保護者は、追加のトレーニングを望んでいる。
- 保護者の態度の変化により、家庭の衛生状況も改善した。
- 保護者は、（布ナプキン使用により）毎月の使い捨ての生理用品の購入にかかる費用を節約できることができたようになったため、本プロジェクトの実施を感謝している。



ルワウナ初等学校の Kamulegeya Hadad 校長

#### 教員の月経時の衛生管理に対する態度

ルワウナ初等学校の Kamulegeya Hadad 校長は「SORAK がプロジェクトを実施する前には、月経時の衛生管理に注意を払ったことはありませんでした。女性教員のみが仕事として関わっており、他の教員は関係ないと思っていました。このプロジェクトを通じて、月経時の衛生管理に関する教員と保護者の責任が明確になったことで、教員の態度が変化し、月経時の衛生管理は関係者全員の連帯責任であると認識しました。」と述べた。

### 3.0 プロジェクトの成果、成功

#### 3.0 概要

本セクションでは、ルワウナ初等学校、聖ジョセフ・チバリंगा 初等学校、プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターの対象校 3 校における主な月経時の衛生管理プロジェクトの成果、成功について明記する。本プロジェクトは、各対象者（生徒、教員、学校の責任者、保護者）を関与させることで様々な成果を生んだ。

### 4.0 プロジェクトのインパクト

#### 4.0 概要

下記のセクションでは、月経時の衛生管理プロジェクトが地域、学校、男子・女子生徒にもたらしたインパクト（効果）について述べる。

#### 4.1 コミュニティへのインパクト

プロジェクト対象地域の周辺のコミュニティで、プロジェクト対象校以外の学校でも、SORAK の布ナプキンの紹介を行ってきた。それらの学校は、布ナプキンを購入するために SORAK へ連絡すると約束した。布ナプキンをより多く販売できれば、より多くの女子生徒が学校にとどまることが出来る。

#### 4.2 学校におけるインパクト

本プロジェクトは下記のインパクトを与えた：

- 月経時の衛生管理に対する学校の対応が改善し、学校関係者や教員の生徒に対する態度が変化したことで、女子生徒が退学しなくなった

- アセスメントの結果、女子生徒の退学率が減少した。これは、性教育のセッションの中で若年の避妊具なしの性交渉・妊娠のリスクを啓蒙したためである。この女子生徒の欠席・退学率は教員が記録している出欠簿を基にしており、欠席、退学の減少が特明確で、SORAK の貢献が顕著であった。
- アセスメントの結果によると、若年の結婚、望まない10代の妊娠と、HIV/AIDS のような関連した危険性が減少した。これは、性教育セッションの成果であり、思春期の女子生徒が自身を守る能力を向上させ、性的虐待、性的な嫌がらせの事例を報告するなどしたためである。上記の人数の減少は、生徒、保護者、コミュニティメンバーが登録している学校の委員会が定期的に行っている調査結果を根拠としている。例えば、聖ジョセフ・チバリンガ初等学校では、妊娠や結婚を理由として退学した生徒数を登録している。2017年のデータでは、7名の7年生が妊娠や結婚を理由として退学し、2018年のデータでは、6年生が1名退学した。退学者の現象は、SORAK と「月経衛生クラブ」の活動の成果であると思われる。

「生徒は、若年の結婚のリスクを学ぶと、学校で勉学を継続することに集中するようになる。以前は、8-9名の生徒（6-7年生）が退学していたが、今年は1名の退学者しか出なかった。これはプロジェクトの成果といえる」

#### 4.3 生徒へのインパクト

- リスクの高い行為（若年の性交渉による妊娠）を回避し、責任のある行動をとるようになった
- 性と生殖に関する健康を守り、性生活に関する決断をするための生徒の能力強化
- 生徒間で互いに影響し合うことで、より自己管理できるようになった
- 男子生徒の月経中の女子生徒に対する偏見・差別が減少した
- 月経時の衛生管理に関する知識の習得と布ナプキン生産による衛生管理の改善
- 女子生徒が月経周期を知ることによって、計画が立てられるようになり、適切な月経時の衛生管理が可能となった
- 若年の性交渉と退学に関するアドバイスを受けた後、女子生徒が自尊心を高めた
- プロジェクトで得た知識により、不良グループからの影響を受けることが減った
- 女子生徒が男性（タクシードライバー等）から贈り物を受領することに関連したリスクを減らすことが出来た

#### 4.4 教員、保護者へのインパクト

- 教員は、過去には知らなかった月経時の衛生管理や性教育の理解を十分に得た。
- 保護者と教員は、思春期の生徒にどのように対応すればよいかということを学んだ。学校と家庭において、思春期の子どもたちに対応する術を身に付けた。術とは、思春期の子どもたちを力で従わせるのではなく、会話をし、好意的に接する等である。
- プロジェクト前には、保護者・教員は性に関する事項（月経時の衛生管理、性教育等）について子どもたちと話すことはなかったが、プロジェクトの実施後は、自由に話せるようになった。

- プロジェクト前には教員や保護者が若い女性を性的虐待することがあった。しかし、プロジェクトの実施後には、思春期の女子たちは能力強化を通じて、性と生殖に関する権利を主張し、自身を守れるようになった。そのため、教員や保護者の性的虐待はなくなった。
- 保護者は娘の若年での結婚を否定するようになった
- 1年間使用できる布ナプキンの利用が増え、使い捨ての生理用品を購入する費用を節約できるようになった。

ルワウナ初等学校の生徒の一人は、「3名の男子生徒が、女子生徒に性交渉を求めていたが、女子生徒の報告により、追放された」と述べた。

## 5.0 プロジェクトの教訓

### 5.1 課題

1. ルワウナ初等学校、聖ジョセフ・チバリンガ初等学校は、電気の接続がないため、SORAK オフィスに作成途中の布ナプキンを持参し、かがり縫いの作業を行い、その後再度学校に戻した。
2. 布ナプキン生産のための材料が十分でなかった
3. 第3学期の生徒の参加は、学期末試験があったために限定的であった。

### 5.2 プロジェクトは異なる方法で実施されるべきだったという意見

インタビューされた関係者は、下記の点が実施されればプロジェクトはより効果的であったと述べた。

1. トレーニングに低学年の女子生徒も含めるべき
2. 結果を継続的に生み出すために「月経衛生クラブ」メンバーの能力強化の実施
3. 布ナプキン生産のための材料の供給、各校へのミシンの供給をする
4. トレーニングを受けた生徒による生徒全員への布ナプキン生産のためのトレーニングの実施
5. クラブメンバーのやる気を喚起するため、制服やTシャツなどを配布する
6. 布ナプキン生産の技術を高めるために女子生徒に追加のトレーニングを実施する

### 5.3 SORAK の生産した布ナプキンを普及する戦略の提案

- a) 地域を基盤とした意識や関心を高めるためのトレーニングに参加していない人々へ、SORAK の生産した布ナプキンの普及をするためにマーケティングに更なる努力をすること。例えば、戸別の訪問販売、ソーシャルメディアを活用するなどである。
- b) 販売拠点の開設と代理販売者を開拓する
- c) ラジオのCM、トークショーで販売担当者の連絡先を含む宣伝をする
- d) 女子生徒に布ナプキンを販売するため他の学校の女性教員とも協力する
- e) たくさんの学校を訪問し、サンプルやSORAKの連絡先を残す

### 5.4 教訓

1. 月経周期、月経時の衛生管理を学んでから男子学生、保護者、教員の考え方が変化し、女子生徒の欠席も減った。

2. 女子学生が月経時の衛生管理の知識と布ナプキン作成の技術を身に付けたことで、個人の月経時の衛生管理が改善した。
3. 女子生徒は、月経は必然的に起こる現象で、勉強をやめる理由とはならないことを学んだ
4. 月経に関するトレーニングはさらに多くの女子生徒を対象とすることが理想である
5. 男子生徒の偏見を取り除くことで、女子生徒が学びやすい環境を整えることが出来た
6. 保護者の意識を高めることで、女子生徒が勉学を継続し HIV/AIDS のリスクをさげ、若年の妊娠や結婚を減らすことが出来た

## 6.0 今後のプロジェクトに対する提案

下記は月経時の衛生管理の改善プロジェクトを拡大し、継続させるための提案である。

1. 資機材（布、ミシン等）を提供し、より多くの生徒を布ナプキン生産のトレーニングに参加させる
2. 「月経衛生クラブ」のメンバーをトレーニングし、ミシンを用いた布ナプキン生産を行わせる。活動の継続性と、メンバーを識別しやすくするためにユニフォームを提供する
3. SORAK が関わらなくなっても布ナプキン生産、プロジェクトが継続するよう、保護者からの寄附を募り資機材を購入し、布ナプキンの販路の拡大を行う。
4. 学校を基盤とする保護者への（特に家計を握る父親の態度の変化を促すため）啓蒙活動を継続する。
5. 対象校 3 校の生徒、教員、保護者、政府の代表者からなる委員会を設立し、男女不平等の問題に立ち向かう。
6. 県の教育課は、保護者と教員間の会合の時間に保護者と対話する時間を割り、子どもの権利とその侵害の問題を喚起すべきである。

ある親は「私は保護者の中に、娘が月経中に生理用品を要望する度に、自身の娘を虐待している人を知っている。我々は彼の家に行き、話をした。彼は考えを改め、今はとても協力的である。学校を基盤とする保護者への（特に家計を握る父親の態度の変化、自制を促すため）啓蒙活動を継続する必要がある」と述べた。

## 7.0 終わりに

本プロジェクトへの資金提供と活動を通じて、SORAK は思春期の女子学生の月経時の衛生管理の改善を行い、その結果、女子学生の退学を減らすことが出来た。SORAK は上述の通り、プロジェクト対象校と地域、学生、教員、保護者において大きなインパクトを与えることが出来た。

## 参照

### 添付1：参加者

下記の表は、アセスメント調査の参加者のリストである。

No.	生徒の IDコード	性別	年齢	インタビュー 日	学校名	学年	誕生日	宗教	部族	インタビュ アー
1	NABE	F	15	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.6	14/06/2003	Catholic	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
2	KYGO	M	14	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	13/11/2004	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
3	NAMA	F	14	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	24/04/2004	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
4	NAEV	F	14	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	24/08/2004	Protestant	Mukiga	Nnakiruuta Hadijah
5	MAJO	M	14	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	13/04/2004	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
6	AHGR	F	13	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	04/11/2005	Born Again	Mukiga	Nnakiruuta Hadijah
7	TUSI	F	15	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	06/10/2003	Born Again	Mukiga	Nnakiruuta Hadijah
8	NAPR	F	16	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	15/10/2002	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
9	NAAI	F	12	23/11/2018	Kibalinga PS	P.6	17/12/2006	Protestant	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
10	KYOJA	F	13	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.6	04/04/2005	Catholic	Mukiga	Nabandeke Ziadah
11	NAMO	F	11	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.6	02/08/2007	Protestant	Munyankole	Nabandeke Ziadah
12	NARE	F	12	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.5	16/09/2006	Catholic	Munyankole	Nabandeke Ziadah

13	NAHA	F	12	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.6	09/12/2006	Muslim	Muganda	Nabandeke Ziadah
14	NASU	F	11	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.5	16/05/2007	Catholic	Munyoro	Nabandeke Ziadah
15	NANO	F	13	23/11/2018	St Josephs, Kibalinga PS	P.6	25/12/2005	Catholic	Muganda	Nabandeke Ziadah
16	NAHA	F	13	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	p.6	29/04/2005	Protestant	Muganda	Buyinza Phoebe
17	GAMU	M	13	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	01/12/2005	Muslim	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
18	NASU	M	13	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	03/12/2004	Muslim	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
19	NADO	F	14	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	03/11/2004	Catholic	Mutoro	Nnakiruuta Hadijah
20	MUSA	F	14	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	02/10/2004	Catholic	Mutoro	Nnakiruuta Hadijah
21	BUMU	M	14	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	14/07/2004	Muslim	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
22	NAJA	F	18	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	p.6	05/01/2000	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
23	BAMU	M	13	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	16/05/2005	Muslim	Musoga	Nnakiruuta Hadijah
24	SEGE	M	11	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.5	11/01/2007	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
25	KOGR	F	14	23/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	05/08/2005	Catholic	Mukiga	Nnakiruuta Hadijah
26	NASA	F	14	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	p.6	18/06/2004	Muslim	Mukonjo	Buyinza Phoebe
27	NASH	F	13	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	04/07/2005	Muslim	Munyoro	Buyinza Phoebe
28	KUJO	F	12	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	08/08/2006	Protestant	Mukonjo	Buyinza Phoebe
29	NAER	F	14	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	24/11/2004	SDA	Mufumbira	Buyinza Phoebe

30	KESA	F	15	26/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	21/02/2003	Catholic	Munyoro	Nabandeke Ziadah
31	SHABI	F	12	20/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	05/03/2006	Muslim	Mutoro	Nabandeke Ziadah
32	KA AF	F	14	21/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	12/12/2004	Muslim	Munyoro	Nabandeke Ziadah
33	KAMA	F	13	22/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.5	25/02/2005	Protestant	Mukonjo	Nabandeke Ziadah
34	NAGL	F	12	23/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	np	Catholic	Muganda	Nabandeke Ziadah
35	KIEM	M	14	23/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	np	Np	Np	Nnakiruuta Hadijah
36	KIAL	M	14	23/11/2018	Lwawuna Muslim PS	P.6	np	Np	Np	Nnakiruuta Hadijah
37	KIPR	F	12	24/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	np	Protestant	Mukiga	Nnakiruuta Hadijah
38	MANO	F	13	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	07/05/2005	Catholic	Mufumbira	Nnakiruuta Hadijah
39	IRSH	F	10	26/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.5	11/01/2008	SDA	Munyarwanda	Nnakiruuta Hadijah
40	SEMA	M	14	27/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	10/04/2004	Protestant	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
41	KAHA	F	12	27/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	07/10/2006	Born Again	Munyarwanda	Nnakiruuta Hadijah
42	ASSH	F	13	27/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	01/07/2005	SDA	Munyarwanda	Nnakiruuta Hadijah
43	NARO	F	12	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	01/04/2006	Catholic	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
44	SEMA	M	14	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	10/03/2004	Catholic	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah
45	ABMA	M	15	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	03/07/2003	Muslim	Munyoro	Nnakiruuta Hadijah

46	NASW	F	12	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	25/12/2006	Muslim	Muganda	Nnakiruuta Hadijah
47	TWRE	F	13	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	P.6	07/10/2005	SDA	Mufumbira	Nnakiruuta Hadijah
48	NAAL	F	13	25/11/2018	Precious Child Learning Centre PS	p.5	02/11/2005	Born Again	Muganda	Nnakiruuta Hadijah

添付 2 : 2018 年月経時の衛生管理の改善プロジェクトの写真 (写真は左から①、②、③、④)



- ① プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの生徒たちが、クラブメンバーを選出している様子
- ② 選出されたクラブメンバーの写真
- ③ 聖ジョセフ・チバリング 初等学校の生徒たちに、クラブメンバーの役割と責任を説明しているところ
- ④ 聖ジョセフ・チバリング 初等学校の生徒たちが手を挙げて意見を述べているところ



- ① 聖ジョセフ・チバリング 初等学校のクラブメンバー
- ② ルワウナ初等学校の生徒がクラブの代表者を選出しているところ
- ③ & ④ 月経時の衛生管理、性教育、SRHR に対してポジティブな変化をもたらすことを期待され、投票で新たに選出されたルワウナ初等学校のクラブメンバー



- ① ルワウナ初等学校のクラブメンバーがトレーニングに備えてミーティングしている様子
- ② ルワウナ初等学校のクラブメンバーがトレーニングを行う様子
- ③ ルワウナ初等学校にてセッションの最中、SORAK のプログラムスタッフが、生徒たちに質問している様子
- ④ ルワウナ初等学校にてプレゼンテーションを準備している様子



- ① プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター7年生とクラブメンバーがジェンダーと性交渉の違いについて説明している
- ② トレーニング中、SORAK のスタッフが、生徒の考えを書き出しているところ
- ③ 聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校のクラブメンバーが、ジェンダー啓発トレーニングの準備をしている様子
- ④ ジェンダー啓発トレーニングの様子



- ① SORAK のスタッフが布ナプキンの装着方法を教えているところ
- ② SORAK のスタッフが布ナプキンを利用することの利点を説明しているところ
- ③ SORAK が、ナビンゴラ教会区、並びにンカンドワ教会区で作成された布ナプキンを見せている様子
- ④ SORAK がルビンビリ教会区、ナビンゴラ教会区のカボワの女性に布ナプキンの使用方法を説明している様子



- ①SORAK プログラムマネージャーがチバリンガB教会区で布ナプキンの使用方法を教えているところ
- ②同上
- ③SORAK 代表がチバリンガ準郡のカサナのミーティングで撮影



- ①SORAK プログラムマネージャーが材料（脱脂綿）を見せている
- ②同上
- ③ボタンをつけるためのプレス機
- ④他の布ナプキンの資機材（糸、はさみ、針、油など）を見せている様子



- ①ナイロンの生地を見せているところ
- ②布ナプキン作成のボランティアがミシンを使っているところ
- ③布ナプキン作成に使用するロックミシン
- ④他の布ナプキンの資機材



- ① 聖ジョセフ・チバリング 初等学校で布ナプキンを生産している様子
- ② 生徒たちが作成した布ナプキンを見せているところ
- ③ ルワウナ初等学校でテーラーが布ナプキンを生産している様子
- ④ 生徒たちが作成した布ナプキンを見せているところ



- ① プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターで布ナプキンを生産している様子
- ② プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターの生徒たちが作成した布ナプキンを見せているところ
- ③ SORAK のスタッフが、材料を裁断している様子
- ④ ボランティアが布ナプキンに機械でボタンつけをしている様子



- ① 作成された布ナプキン
- ② SORAKのスタッフとサポートスタッフが、布ナプキンを梱包している様子
- ③ プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターの生徒が月経時の衛生管理トレーニングの復習をしている様子
- ④ 同上



- ① プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターの生徒が布ナプキンを作成している様子
- ② SORAKの布ナプキンを作成ボランティアと、聖ジョセフ・チバリング初等学校の女子生徒が、材料を測っている様子
- ③ 完成した布ナプキン



- ① プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターと聖ジョセフ・チバリング初等学校の生徒が布ナプキンの使用方法を説明している様子
- ② 同上



- ① &③④聖ジョセフ・チバリング 初等学校、ルワウナ初等学校で実施されている布ナプキンの生産過程
- ② プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターを視察した GBN の代表、布を測っている生徒



- ①-④聖ジョセフ・チバリング初等学校における 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューの様子



①-③聖ジョセフ・チバリング初等学校における 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューの様子  
 ④教会区における 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューの様子



①-④プレシャス・チャイルド・ラーニング・センターにおける 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューの様子



① -④ルワウナ初等学校における 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューの様子



① SORAK と女性教員がルワウナ初等学校にてアセスメントを実施している様子

② 同上

③ 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューされる母親

④ 2018 年のプロジェクトのインパクトアセスメントのためのインタビューを受ける生徒